
ホテルのニュースレター

日本ホテルの会 2016/8 第 71 号

「ホテルの日」ってないのですか？

日本ホテルの会理事 井上 務

ある日、表題のような質問を受けました。

「ウーン、そういえば“ホテルの日”って聞いたことがないナァ～」と早速パソコンに「ホテルの日」とキーワードを入力し検索してみました。検索の結果、どうやら「ホテルの日」はないようです。

1年 365 日、ほとんどの日が「〇〇の日」になっているそうですので「今日は何の日」をチョット調べてみました。するといろいろな記念日等が見つかりました。例えば「ショートケーキの日」は毎月の 22 日でした。なぜ「ショートケーキの日」か？というとカレンダーを見れば「なるほど！」とすぐに納得してしまいました。カレンダーの 22 日の上にはいつもイチゴ(15 日)があるからだそうです。そんなことを知ってしまったので、つい最近、ケーキ屋さんのアルバイトさんに「ショートケーキの日ってご存知ですか？」と聞いてみしたら「知りません」との回答でしたので得意気に「22 日の上はいつもイチゴでしょ」と教えてあげました。「知りませんでした。でも本当にイチゴですネ、教えて頂きありがとうございます」と感謝されました。そしてそのアルバイトさんから「では、6月6日は何の日かご存知ですか？」と逆に質問されてしまい「知りませんネ～」と答えると「実はロールケーキの日なのです、その週は100個限定ですが大安売りの666円で販売させて頂きま～す！」と宣伝されてしまいました。後日、そのお店で666円のロールケーキを購入、美味しくいただきました。666 円のロールケーキには確かに数字の「6」がクッキリと描かれていました。「いろいろ考えられているナァ～」と感心しました。

もうひとつ紹介いたします。ホテルの幼虫たちが上陸する頃はサクラの花びらが散る頃と言われますので「“さくらの日”はいつかな？」と調べて見ましたら3月 27 日でした(日本さくらの会が平成4年に制定)。3×9(さくら)=27 の語呂合せと、七十二候のひとつ「桜始開」(さくらはじめてひらく)とが日程的に重なることから決められたそうです。「ほう！日本さくらの会が“さくらの日”を決めたのか！」と知った私は「では、日本ホテルの会が“ホテルの日”を〇月〇日と制定してもいいのでは？」と思いついてしまったのでした。そして「では“ホテルの日”っていつが適切なのだろうか？」とあれこれ考えてしまいました。その結果「6月 11 日がイイ」との

結論になりました。

その理由を以下に記します。

先ず“ホタルの日”の該当月は6月で良いでしょうと考えました(南北に長い日本、異説もあるでしょうが…)。次は日にちを考えた訳ですが「ゲンジ」と「ヘイケ」の前胸背板にある十と1のマークを合わせると十一になるので日にちは11日を設定。さらに二十四節気「芒種」、七十二候の第二十六候「腐草為螢」(かれたるくさほたるとなる)はいつかとあたってみると6月11日から15日頃とあるではありませんか!こんな風にして6月11日を「ホタルの日」に!と決めてみました。

我ながらなかなかイイ案だと自画自賛してみたのですが皆さま如何でしょうか?!ご意見をお聞かせください。そもそも6月水無月は水が無い月ではなくて祝日が無い月です。いつの日か「ホタルの日」が祝日になったら更に素晴らしい!などと勝手に考えてみました。

そんな考えがまとまった頃、偶然でしょうか?ホタルだけに“虫”の知らせでしょうか?奇しくも2016年「6月11日」には「夏美のホタル」という題名の映画が封切られるとの新聞記事が目に入りました。その情報をたまたま見た私、いよいよ“ホタルの日”は“6月11日”に決まりだな!と心強い気分になったものです。「夏美のホタル」という映画、いつかきっと観てみようと思っているところです。

(この原稿は二十四節気・夏至、七十二候・菖蒲華の頃に記しました)

FM 平塚湘南ナパサで「螢」をテーマに番組制作

～生まれて初めてホタルを見ました～

東海大学文学部広報メディア学科3年
こちらラジオ番組制作部所属 芳賀 弘隆

こんにちは、僕たちは神奈川県にある東海大学湘南キャンパスで活動している「こちらラジオ番組制作部」という団体です。平塚市のコミュニティFM局、「FM 平塚湘南ナパサ」で毎週火曜日20時から学生がラジオ番組を放送しています。6月21日の放送として、今回は「螢」をテーマに放送しました(2枚の写真はその時の様子です)。

そもそも、本企画の立案者である芳賀がこれまで螢を見たことが無かったため、「一度、生で螢を見てみたい!」という想いからこの企画を立案し、日本ホタルの会の井上務様に取材のご協力をいただきました。

僕たち制作人の中でも
蛍を見たことがないメンバ
ーが多く、蛍を「特別な存
在」として捉えてきました。
都会に住み、見る機会と
場所も減っているため、特
別なものになってしまうの
もしかたがないのかもしれ
ません。そんな中、僕らが
初めて蛍を見たのが、杉
並区で行われた「久我山
ホタル祭」でした。放流さ
れ、ふわっ、と光る蛍をこ



の目で見たとき、小さくも大きな存在を放つ蛍に目が釘付けになってしまいました。周りにいる来場者も全員が蛍を見つめ、大人から子供までが惹きつけられるものなのだと自覚させられることになりました。ここで見た実物のホタルでは、その光り方や人の反応といったものを目にすることができました。

しかし、この後に井上様にホタルについてお話をいただき、ホタルの見方、考え方がガラッと変わることになりました。遠い存在だと思っていたホタルが、「実は人間の近くで生きている」ということ、そして、ホタルを定住させるためにはかつてそこにホタルが飛翔していた頃のような多様な自然環境を取り戻さなくてはならないということを教えていただき、今まで自分たちがホタル「だけ」にしか目を向けていなかったことに気づかされました。ホタルが生きているそこには、光らない虫や、鳴かない虫だって存在している、そしてその存在があるからこそホタルが生きられるということ。今までの自分たちには持っていない考えでした。

その後、改めて自然の中に定住したホタルを見るため、僕らのキャンパスのすぐそばにある「金目親水公園」、そして「石川丸山谷戸」(井上さんに紹介していただいた佐藤政博様のご案内で)の二か所に行ってきました。井上さんのお話をいただいたあとに行ってみると、ホタルだけではなくその空間全てに目を向けることになりました。一昔前にタイムスリップしたかのような大自然や、そこに生きる多様な生き物を目にすることで、今まで自分たちが生活してきた環境とはまるで違うことに驚きました。久我山で見たホタルが「人のためのホタル」であるならば、そこで見たホタルはどことなく久我山で見たホタルよりも力強さのようなものを感じることができ、ホタルを見ているというよりも、「ホタルのための自然」を見ているような気がしました。大学のキャンパスの近所にもホタルが生きており、今まで遠い存在に思っていた「蛍」を今回の沢山の体験で、より身近に、様々な角度から知れたと思います。

実は特別な存在ではなく、人のすぐそばで生きてきた蛍。今回、「蛍を見る」と

いう行為から、あの光の持つ力を実感すると共に、自分が暮らしてきた環境を振り返り、現代の若者だからこそ、その存在が遠いものと感じてしまうということを考えさせられました。

この度は、ご多忙の中、急な依頼にも関わらず、取材に応じて頂いた井上様、案内をしていただいた佐藤様、本当にありがとうございました。

(そして、一緒に取材し番組制作に携わってくれた全ての仲間に感謝の気持ちを込めてこの報告を綴らせて頂いたということを付記します)



2016年度 日本ホテルの会 観察会報告

日本ホテルの会事務局 大津 順子

6月26日、日本ホテルの会の観察会に参加してきました。場所はあきるの市養沢です。暗くなる前に養沢センターへ集合し、オリエンテーションが開かれました。事務局からの説明後、参加者も一人ひとり自己紹介をし、軽食をいただきながら情報交換をすることができました。

また、今回は特別企画として写真撮影講習会も開かれたので、説明を聞いてみることにしました。

- 1) 暗くなる前に現地に到着し、下見をして事故を防止すること
- 2) ストロボは使わないこと。他の見学者の邪魔にならないようにすること

等の注意事項や、きれいに写すための必要な撮影機材やその設定方法など、かなり細かく、そして詳しく説明を聞くことができました。ホテルの写真を撮るためには、私が持参したコンパクトデジカメでは難しいようでしたが、夜景モードで写る

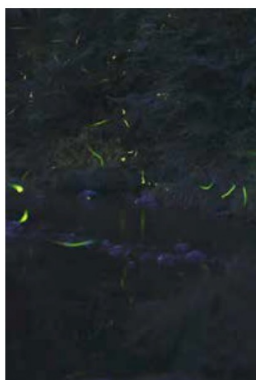


かもしれないとアドバイスをいただき、挑戦してみることにしました。

日が暮れる前に、ホタルの観察場所へ移動し、カメラを設置。あとは、ホタルが光りだすのを待つだけです。だんだんとあたりが暗闇になり、ぼつぼつと光が見えてきました。そして、気が付けば、たくさんの光が見られ、うっとりするひと時でした。なんとかその光景を写真に残せればとシャッターを切ってみたのですが……。やはりコンパクトデジカメでは暗闇しか映らず……。残念無念です。ですが、講習会で講師をしてくださった古河さん、宇田川さんのカメラはさすがにとってもよく写っていて、生で見るのとは違った幻想的で綺麗な写真でした。今回は私自身は成果物は残せず残念でしたが、たくさんのホタルを観察でき、それだけでうれしい気持ちがいっぱいになりました。



宇田川講師の写真（近景）



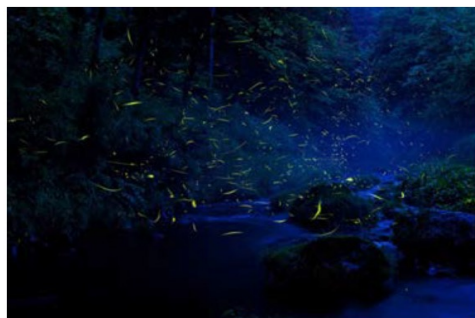
“三脚とレリーズは必須、RAWで撮影するのがポイントです。”

カメラ：CANON EOS 6D

レンズ：アダプター＋MAMIYA SEKOR C 80mmF1.9N(中判カメラのレンズ)

シャッタースピード 30秒、絞りF1.9開放

古河講師の写真（遠景）



“まず最初に背景を撮影し、それにホタルの光を何枚も撮って、後程PCで背景に光を重ねるという方法です。”

その日に一枚しか撮れませんので、構図をしっかりと決めて撮影を始めたなら、他の方角が良さそうにみえても我慢して撮り切ることが秘訣です。”

カメラ Canon EOS 5D Mark2

レンズ Carl Zeiss Planar T* 1.4/50 ZE

シャッタースピード バルブ撮影

絞りF1.4 ISO感度 800 露光時間4秒のカットを80枚多重合成

2016 年ほたるサミット in 阿久比に参加して

日本ホタルの会会長 本多 和彦

阿久比町は、名古屋市中心部から約 25km 南に位置する、知多半島内の自治体で、日本ホタルの会に長期にわたり会員として参加いただいています。ほたるサミットは、平成元年に環境庁(当時)が選定した「ふるさといきものの里 100 選」の中で、日本一のほたるの里を目指す市町が参加し開催されてきたもので、阿久比町は、このサミットに参加し、ホタルを町の自然のシンボルとしてぶれることなく大切にしています。今年度は、このほたるサミットが、阿久比町で開催され、当会も後援することになったことから、当会も参加させていただき、地元阿久比のみなさまの熱気とわが町こそ日本一のほたるの里とそれぞれの市町をご紹介いただいた首長のみなさまの熱い思いを感じてまいりましたので、ご紹介させていただきます。

今回のサミット参加市町は、滋賀県米原市、和歌山県紀の川市、岡山県真庭市、山口県下関市、福岡県北九州市そして愛知県阿久比町の 6 自治体です。

サミットは、地元小学生チアキッズGOGOによるダンスでにぎやかに始まりました。地元の多くの聴衆でにぎわう会場は、一気にボルテージが上がって、地元のみなさんのホタルへの思い、そして各市町、来賓への歓迎の思いとともに、このサミットを成功させようとする強い願いを感じました。その後、阿久比町竹内町長のあいさつ、大村愛知県知事他来賓のあいさつ、各市町の紹介等と進められましたが、この中で 2 点印象に残ることがありました。1 点目は、発展とホタルの共生を目指す阿久比町の姿勢です。阿久比町は、愛知県内で世帯数増加トップであるということで、人口減少と高齢化に悩む自治体が多くある中、名古屋近郊のベッドタウンとして発展しつつある町なのだと感じました。そういった町の発展に伴ってホタル生息地の減少が課題となっていることにも言及され、阿久比のアイデンティティとして、そして町の貴重な財産としてホタルを残そうとする町長の強いお気持ちがあいさつから伝わってきました。名鉄名古屋までは特急で約 27 分という好立地の町において、町の発展とホタルの住む環境が両立する持続可能なまちづくりを進めている阿久比町に敬意を表しつつ、期待させていただきたいと思います。もう 1 点は、大村知事の言葉にあった、「愛知県は 2010 年に COP10 の開催地であるとともに、有数の産業の集積する都市であり、県として産業も環境も日本一でありたい」という考えです。経済発展と環境保全は、これまで相反するものとして考えられることが多かったと思いますが、私たちの努力や配慮、行動によって物質的豊かさと心の豊かさを両立していかなければ、持続可能な発展はないのだと思い、阿久比のまちづくりとともに、心に残りました。

各自治体の紹介と後半のほたるフォーラムでは、各市町の首長や代表の方から各地のほたるや町の魅力が語られ、本当にどの町にも行ってみたいと思いまし

たし、これらの町に住む人は幸福な時間を持っているのだろうと思いました。単にホタルを自然の象徴として大切にするだけでなく、地域の文化として尊重しつつ、地域の財産としてしっかりと活用している様子もよくわかり、日本一のほたるの里を目指す自治体の姿を全国に発信していこうとする、このサミットに込められた意義を感じることができたと思います。

最後に、もう一つ忘れてはならないものをご紹介します。サミットにおいて東部小学校の発表がありました。阿久比町では各小学校でホタルに関する活動が盛んに行われていて、パネル展示で紹介されていましたが、その中から東部小学校が代表して活動報告をしました。発表は、子どもたちが工夫をしたもので、とても素晴らしかったのですが、注目すべき点は、この学校の活動が、1年生から6年生までそれぞれの学年で役割分担し、入学から卒業まで一貫したホタル教育がなされている点です。これは、全員が参加することやその年代に合わせた関わりで、自然への愛着を持たせることができ、大変重要なことと思います。また、学校活動では、熱心な先生や校長先生の異動で盛んだった活動が停滞してしまうことがあり、学校での活動の課題の一つとなっていますが、この学校のようにすべての児童が、学校行事として参加していると、そういった心配が少なくなり、良き伝統が出来上がり、大人になってもみんながホタルへの思い、自然への思いを持ち続ける土壌になると思います。こうした子供のころからの経験が土台となって、多くの町民が参加する持続可能なまちにつながっていくのではないかと感じました。これはとても大切なことです。学校活動をされている読者のみなさまもご参考にしてみてはいかがでしょうかと思います。

2016 ほたるサミット in 阿久比は、参加市町による共同宣言と次回開催地の紀の川市への引継式で終了となり、その後、記念講演として中部大学教授武田邦彦氏のお話を聞き、閉会となりました。

ほたるサミットは、開催地の熱意、参加市町のホタルへの思いを感じ、機会があればすべての町のホタルに会ってみたいと思わせてくれる中身の濃いもので、参加してよかったと思います。

来年は、和歌山県紀の川市で開催予定とのことです。紀の川市は、貴志駅の「たま駅長（現在はたまⅡ世駅長（通称ニタマ））」でも知られているそうですので、来年、訪れてみてはいかがでしょうかでしょう。



注：ほたるとホタルの表記について

ほたるサミットでは、「ほたる」とひらがな表記になっているので、関連するところはそれに従いました。その他では「ホタル」と表記しています。

INFORMATION

事務局からの お知らせ

理事会等報告

- 2016年5月8日(日) 東京都中野区において、役員会議を開催し 2016 年度観察会について検討し、6月下旬の東京都あきる野市養沢での開催を決定しました。なお、観察会は 2016 年 6 月 26 日(日)に開催されました。
- 2016 年 4 月 1 日から事務局を「横須賀市西浦賀 4-11-2-404」に移設し、同 4 月 3 日に旧事務局から書類等の引継をしました。
これからも日本ホタルの会をよろしくお願いします。

NHK出演 報告

2016年06月13日(月)
NHK Eテレ「視点・論点」に
“ホタルの舞いを求めて”というテーマで
当会古河義仁理事が出演されました。

<http://www.nhk.or.jp/kaisetsu-blog/400/246926.html>

ホタルのニュースレター(第71号)

2016年 8月25日発行

編集 日本ホタルの会事務局

発行 本多 和彦

〒239-0824

神奈川県横須賀市西浦賀4-11-2-404本多方
(日本ホタルの会事務局)

e-mail: mail@nihon-hotaru.com

URL: <http://www.nihon-hotaru.com>

Facebook: <http://on.fb.me/1DONDgN>



日本ホタルの会
JAPAN FIREFLIES SOCIETY

印刷 青森コロニー印刷

東京都中野区江原町 2-6-2

TEL: 03-5996-2761